

参加型「くらしの地産地消」 × 地域課題の解決 ⇒持続可能なコミュニティ・拠点づくり



2014年まちづくり団体設立
エネルギー、食、お金の地産地消スタート！



2024年、最初のプロジェクト連携先・NPO法人と
2か所目の発電所づくり

* 事業者の概要

株式会社 市民エネルギーとっとり

設立：2015年10月

資本金：940万円（地域住民、団体が出資。株主配当は行わない）

めざす姿

- ・くらしの地産地消（エネルギー、食、お金…）による資源循環の再生と地域課題の解決
- ・FEC（食、エネルギー、ケア）自給圏・拠点を増やし、自然と共生する持続可能なふるさとを子どもたちに手わたすことをめざしています

事業・特徴

- ・参加型、住民・地域・消費者主体の発電事業
- ・売電収入の地域還元・循環 → ローカル経済の創出
- ・地元事業者への発注
- ・地域新電力に売電し、地産地消、自給率向上
- ・地域の多様な主体との連携
- ・共生・共創型の太陽光発電を地域に普及・拡大

背景

複合的な地域課題（少子高齢化・担い手減、里山・農地荒廃、災害）
3つの危機（気候変動、地域、エネルギー・資源）

事業全体スキーム（特徴）

●資金調達：ローカルな経済を創る

○建設時：⇒ 資金を地域・市民から調達

- ①地元金融機関からの融資
 <様々な参加の形>
 ②市民出資：半分を地域優先枠で調達
 ③少人数私募債・建設協力金
 ④ご寄付

発電所を
一緒につくる
当事者になる

↑ → 共感の輪が広がる

○発電時：⇒ 売電収益を地域・市民に還元

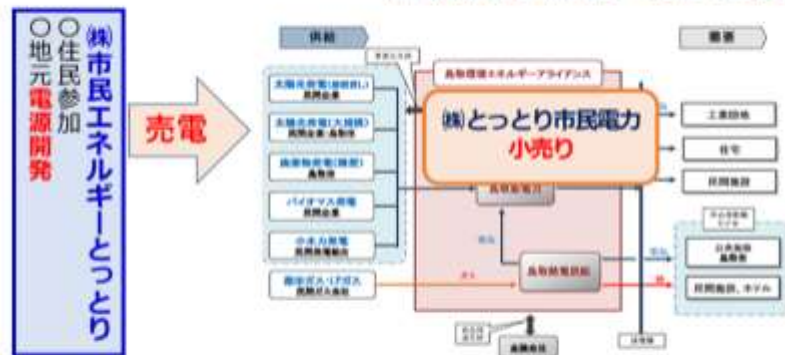
- ① 市民出資への配当
 ② 返済、寄付のお返しに鳥取産品を活用
 ③ 工事、保守も地元企業

→ 建設資金の9割を県内や市民から調達し還元

売電収入を地域還元
課題解決に活用
デザインできる

●発電電力を地域で活用

（自家消費、地域新電力へ売電・9割地産地消）



地域の主体が
地域のために
地域のお金で

創る

地域の会社が
地域のために
地域に電気を

届ける

出所：(株)とっとり市民電力（資料に加筆）

●鳥取産品”で返済・お返し＝生産者と協働

例）とりちくのお肉商品券



例）太田酒造「井天娘」詰合せセット



例）風のマルシェの野菜・果物セット



例）フルーツ観光園利用券



●レジリエンス強化：

点灯式やワークショップで“自立運転”を実演、実体験



2025年8月時点 18力所 約600kW(鳥取市内)

事業全体スキーム（地域振興、還元・循環、貢献）



プロジェクト例	連携先、「声」	還元・循環、貢献
6号機 教育会館 みんなの発電所 PJ :24kW	県教職員組合、高等学校教職員組合など 「大人として実践。高校生巻き込んで。子どもたちに還元を。」	・建設協力:5万円/口 →5千円×10年、県産品・高校生産品をお届け or 返済 ・こども食堂へ寄付(相乗り) ・自立運転WS
7号機 山のまなび舎 おひさまPJ :11kW	やずみ農産、とっとりリーダーアカデミーなど 「元気な地域を残したい。農地を活かしたい。賑わい、関係人口を。」	・建設協力:5万円/口 →棚田米1万円×5年お届け or こども食堂へ寄附 ・共催:もちつき交流会、例祭日に里山楽しむ会

《鳥取県産品カタログ》

①一定の中からお希望の商品(5,000円程度)を1つ選んでください(送料、税込)。選定された商品を年1回(10年間)お送りします。商品の発送時期は生産品によって異なります。産品紹介欄をご確認ください。

②鳥取県産品カタログの商品

鳥取県産品カタログの商品が、県産品・高校生産品・こども食堂へ寄付(相乗り)・自立運転WSに活用されています。

③鳥取県産品カタログの商品

鳥取県産品カタログの商品が、県産品・高校生産品・こども食堂へ寄付(相乗り)・自立運転WSに活用されています。

④とっとり子どもの居場所ネットワーク“えんたく”への寄付

こども食堂などの開設を支援する“えんたく”さんへ教育会館みんなの発電所プロジェクトとして寄付し、活動や各食堂の運営に活用いただきます。鳥取県のこどもたちの成長のために活かされます。

事業スキーム（例. 鳥取市地区公民館PPA事業）

- 概要： 9地区公民館オンサイトPPA(約171kW)
4市内事業者共同実施（2023年～20年）

共同実施	主な役割
(株)市民エネとっとり	(代表事業者)設備設置、資金調達、電力供給、維持管理・遠隔監視
(株)サンコネックス	設備の設計・施工、遠隔監視、メンテナンス、緊急時対応
(株)とっとり市民電力	発電電力の余剰買取(電力受給契約)
山陰エコライフ研究所	温室効果ガス排出量削減効果の検証、エネルギーアドバイス

○背景（鳥取市）

鳥取市第3期環境基本計画に「市有施設における太陽光発電システム等再生可能エネルギー由来の電力の導入検討」を掲げるなど、脱炭素社会の実現に向けて取り組む一環

○市が期待する効果

- ・再生可能エネルギー由来の電力へ転換することで「**脱炭素社会へ前進**」
- ・電力の一部を電力会社の料金より安価に購入し、「**施設のランニングコスト削減**」
- ・災害時における非常用電源の確保による「**防災機能の強化**」

○参加・還元・循環

- ：資金調達・・・地元銀行融資
 - ・・・寄付、私募債
 - ：寄付への返礼・・・ふるさと便
- （協力：トットリ・アフトピア協会）

ご寄付へのお返し＝自然の恵みを共有

1万円以上ご寄付をいただいた方には、新鮮でおいしい「鳥取の特産品セット」を、2024年秋にお贈りし、自然の恵みをおわけします(協力:トットリ・アフトピア協会)。

※ご本人以外の送り先を指定(事前に登録)していただいた場合は、プレゼント等にも活用いただけます。



イメージ

○公民館 ＝ 地域コミュニティの拠点

- PPA事業をきっかけに、
- ⇒ 災害に強い地域づくり
 - ⇒ エネルギー地産地消
 - ⇒ 地域経済の好循環
 - ⇒ 環境・防災教育や協働促進



波及効果、今後に向けて（展開、提言）

地域内外の多様な主体と連携し、様々な社会層への共感と実践を広げていきます

地元高校生とコラボ



取材・視察・見学、講演 ・寄稿等

ゼミ合宿



『市民発電所台帳』NPO法人市民電力連絡会



(株)スマートエネルギーとっとりへ参画



「地域共生型再エネの導入などを通じて、2050年のゼロカーボンシティ実現に向けた道筋を付け、地域経済循環の活性化、地域の課題解決・進化再生、生活の質の向上など安全・安心に生き残れる持続可能なまちづくりにつなげる」（出所：鳥取市）

「協同による地域循環共生圏の再生」 2025年度～ ワーカーズコープ・さんいんみらい事業所と共同実施

（地域循環共生圏づくり支援体制構築事業）

- 遊休農地の活用、廃棄資源の活用循環
- 脱炭素 × 福祉（断熱・省エネ、太陽光発電）
 - 鳥取地域でローカルSDGs事業を創出、仕事づくり
 - 中間支援機能を強化

- 地域共生・共創型の地域雇用の創出
- 太陽光発電が、多様な担い手によって展開、面的に加速

→→ 安心して住み続けられる地域へ

（ローカル経済、災害への備え）

→→ FEC（食、エネルギー、ケア）自給圏・拠点を点から面に